

第3学年 国語科学習指導案

令和3年11月10日（水）

1 単元名 リーフレットでパラリンピックを紹介しよう

～要約する力をつかって～

教材名 「パラリンピックが目指すもの」（東京書籍3年下）

2 単元目標

- 必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方を理解することができる。

[知識及び技能（2）イ]

- ◎ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができる。

[思考力、判断力、表現力等C（1）ウ]

- 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

[学びに向かう力、人間性等]

3 単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解している。(2)イ	①「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。C（1）ウ	①学習課題に沿って、目的を意識しながら、粘り強く図書資料から中心となる語や文を見付けて要約し、リーフレットにまとめようとしている。

4 基盤

(1) 教材について

本単元の重点指導事項は、学習指導要領における〔思考力・判断力・表現力等〕の「C読むこと」(1)ウ「目的を意識して中心となる語や文を見付けて要約すること」である。また、要約するとは、「文章全体の内容を正確に把握した上で、元の文章の構成や表現をそのまま生かしたり、自分の言葉を用いたりして、文章の内容を短くまとめることである。」としている。

児童はこれまで、知りたいことを本で調べたり、大事だと思う語や文に気を付けて読み、段落ごとの内容を捉えたりすることを学習してきている。これらの経験を踏まえ、内容の中心となる語や文を見付けながら文章を読み、書かれていることを要約する力を身に付けさせたい。

本教材は、パラリンピックの概要や理念について説明し、具体的な二つの競技を紹介する文章である。パラリンピックとはどういったものか、具体的な種目、大切にしている考えや目指すものといった複数の話題で構成されており、話題ごとに大事な言葉や文を見付けて要約することに適した教材文といえる。また、まさに今年行われたオリンピック・パラリンピックは、多くの児童にとってタイムリーな話題であることや、3年生の2学期から進める総合的な学習の時間での取組と関連付けること

で、興味や関心をもって取り組むことができる題材である。

(2) 児童について (略)

(3) 指導について

① 単元全体・本時について

本単元では、パラリンピックについて調べて分かったことをリーフレットにまとめて紹介するという言語活動を設定している。リーフレットを作成するためには、目的に応じて、限られた紙面の中で伝えたいことをまとめていく必要があるため、要約する必要性を感じさせることができる。作成後は、学校図書館のオリンピック・パラリンピックコーナーに、作ったリーフレットを置き、全児童に見てもらえるようにすることを伝え、意欲を喚起したい。

本単元の第一次で、児童がよく知っている「桃太郎」を要約する活動を行う。50字で要約した、「桃から生まれた桃太郎が犬とさるときじをお供にしておのが島へ行き、おにたいじをして村が幸せになる話です。」を、要約する文字数を40字、30字、20字とだんだんと短くすることで、より大事で必要な言葉を厳選していく活動をする。この活動後、リーフレットの実物と、パラリンピックの資料を提示し、要約する力を使うことで、伝えたいことを短くまとめて伝えるということを実感させ、見通しを持たせる。

第二次で教材文を読み、筆者が一番伝えたいことを考え、その後4つのまとまりをそれぞれ指定した字数で要約していく。要約の目的は、「みんなにパラリンピックのことを知ってもらうために、重要な部分を分かりやすくする」と設定する。児童には、要約とは「目的に合わせて書かれている内容を短くまとめること。大事な言葉や文を見つけ、分かりやすく書きかえたり、言葉をおぎなったりしてまとめること (教科書 P151 参考)」だと伝える。

教材文の要約には「一言一文付箋」を用いる。教材文から要約に必要だと思うところを付箋一枚に一言、長くても一文で書いていく。書いた一言一文付箋は「情報活用シート」にまとめ、それを見ながら指定した字数で要約していく。「一言一文付箋」と「情報活用シート」を用いることで、大事な言葉を意識して読んだり、書いた付箋を並び替える、整理する、つなぐ、修正するなど、要約する際の有効的な活用につながったりすると考える。

要約した文章のいくつかは全体で共有し、そこから要約のポイントを確認し、追加、修正等を行う。その後、自分が調べるテーマに沿って図書館の資料を要約、修正する活動を取り入れるようにする。

本時は、第二次のボッチャについて要約する場面である。本時まで「オリンピックとは何か」と「パラリンピックの水泳」について要約してきているが、本時では、みんなにパラリンピックのボッチャを知ってもらうために、どこまで内容を取り入れるかを考えて要約する。パラリンピック独自の競技であるため、ボッチャを知らない人に対して、どの内容が重要かを考えることで、さらに目的を意識して要約に取り組むことができる。

第三次では、「みんなにパラリンピックに興味をもってもらおう」を目的に、自分が決めたテーマ

について調べ学習を進める。並行読書の際に、「要チェック付箋」を貼っていた資料について要約していくようにする。一つの内容について100字程度の内容にまとめるよう、これまでの授業で残してきた一言一文付箋を見直したり、新たな資料から書いたり、情報活用シートをもとにしてリーフレットに書き込む内容をまとめたりし、リーフレットを完成させるようにする。

第四次では、作成したリーフレットを読み合っ感想を交流し、学習を振り返る。そして、図書館に「パラリンピックコーナー」を設けてリーフレットを展示し、読んだ人の感想を3年生児童に返していけるようにする。

②研究との関わりについて

○児童の主体的な学びを導く単元構成の工夫

本校の第3学年2学期は、総合的な学習の時間で福祉学習を進めている。今年度はアイマスク体験、ガイド体験、車いす体験などを通して、障がい者福祉について学習する。また、パラリンピックの映像を見たり、競技の体験（ボッチャ）をしたりする。このような総合的な学習の時間の体験と運動させることで、意欲的に国語でのパラリンピックを調べる言語活動に取り組めるのではないかと考える。

本単元に関連した学習をした際は、児童が興味をもった内容を聞き取って残したり、先行読書の際に、「要チェック付箋」を図書に貼り付けたりしながら、自分が調べたいテーマを絞っておく。自分のテーマをもってゴールのリーフレット作成までを見通すことが、児童の主体的な学びにつながると考える。

また、一人一人に資料が行き渡るようにするためにも調べ学習前にテーマを決めておくことが有効である。同じ資料を複数の児童が使用できるようコピーをするなどの対処をし、資料待ちになることを避けることが意欲の継続にもつながると考える。さらに、教材文の要約をした直後に自分が調べるテーマの資料を要約する活動を取り入れることによって、学習したことをすぐにつかかって要約したり、それまでにしていた自分の要約を新たなポイントで見直したりすることができると思う。

作成するリーフレットには、教材文を要約したものを一つは取り入れることとし、単元を通して自分が調べるテーマについての要約が少しずつ残っていくことで、学習したことが蓄積されていく充実感、そして、調べ学習の楽しさを味わわせていきたい。

*本単元に関連する学習について

日付	教科等	内容
9月2日、6日	国語	講師（烏田先生）による要約学習、内容の図式化
9月7日、9日	総合	パラリンピックの映像を見よう、パラリンピッククイズ（「I'm possible」の活用）
9月14日、16日	総合	ボッチャのルールを知ろう、ボッチャを体験しよう
9月22日	国語	福祉関連のミニブックトーク（図書館司書）
10月5日	総合	社会福祉協議会の方との福祉学習（福祉とは、アイマスク体験）
10月14日	総合	社会福祉協議会の方との福祉学習（車いす体験）

10月19日	国語	目次や索引を活用しよう（図書館司書）
10月26日	国語 教科外	パラリンピック関連の図書紹介（図書館司書） 並行読書開始（要チェック付箋）

○協働的な学びの工夫

第二次では、それぞれが書いた要約の文章について意見を交流する。大事な言葉を見つける視点や、まとめ方の工夫、もっと短くする方法など、児童の意見をもとにして要約のポイントがさらに広がり深まっていくようにしたい。

また、リーフレットに書く内容を情報活用シートに下書きしたものをお互いに見たり、完成したリーフレットを読み合って感想を交流したりすることで、お互いの成長や工夫に気付けるようにしたい。

○図書館活用について

単元が始まる前に、学校図書館司書と連携し、「目次やさくいんを活用しよう」を先に学習する。また、本単元で使う資料は、児童が決めたテーマを予め図書館司書に伝えて準備してもらい、10月下旬からは教室にパラリンピックに関わる図書のコーナーを設けておく。単元が始まる前から少しずつ読んでおくことにより、テーマについて考えたり、どんな内容がどの図書に載っているのかを知ったり、自分が調べることについての見通しをもったりできるようにする。

また、第二次で図書を活用する時間や第三次のリーフレット作成時には図書館司書に授業支援を依頼する。

5 指導計画（全12時間 本時6 / 12）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価の観点・方法)	図書館活用
一	1	○桃太郎を要約しよう。 ○学習の見通しをもとう。	・要約する力をつかって、パラリンピックをリーフレットにまとめるという学習の見通しがもてるようにする。		・並行読書
二	2	○筆者が一番伝えたいことを考えよう。	・段落ごとの大まかな内容をとらえながら、文章全体ではどのようなことが述べられているのかを考えるようにする。	【思考・判断・表現①】 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。 (一言一文付箋、情報活用シート)	・並行読書
	3	○①～④段落を要約しよう。	・「パラリンピックとは何か」について要約する。要約とは何かを押さえて取り組めるようにする。		・図書館司書による学習支援

			<ul style="list-style-type: none"> ・要約には「一言一文付箋」と「情報活用シート」を使う。 ・主語を決め、何について要約するのか目的をはっきりさせる。 ・「パラリンピックの水泳」について要約する。例えを省くことを押さえる。 		
	4	○⑤⑥段落を要約しよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・「パラリンピックの水泳」について要約する。例えを省くことを押さえる。 		
	5	○⑦⑧段落を要約しよう。(本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・「ボッチャ」について要約する。詳しいルールなどを必要に応じてどこまで取り入れるかを考える。 		
	6	○⑤～⑧段落をまとめて要約しよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・二つの競技についてまとめて要約する。文と文をつなぐ言葉を考えたり、新たな主語を考えたりする。 		
	7	○⑨⑩段落を要約しよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・「パラリンピックが大切にしているもの」について要約する。詳しい説明は目的や字数によって省くことを押さえる。 		
	8	○⑪段落を要約しよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・「パラリンピックが目指すもの」を要約する。目的に応じて敬体と常体を使い分けることなどを加え、これまでに学習した要約のポイントをまとめる。 		
三	9	○自分が決めたテーマについて調べて要約しよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・リーフレットの実物を再度確認し、題名や、見出し、写真、構成など、見通しをもって活動できるようにする。 ・引用の仕方や出典の示し方について指導する。 ・「一言一文付箋」と「情報活用シート」を使い、自分が決めたテーマに沿って要約する。 	<p>【知識・技能①】</p> <p>必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方を理解している。</p> <p>(情報活用シート、リーフレット)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館司書による学習支援 ・調べるテーマに必要な図書の選書
	10	○要約した文章を読み合おう。	<ul style="list-style-type: none"> ・資料と情報活用シートをもとに、グループで読み合わせをする。 		
	11	○リーフレットを完成させよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・見出し、写真、イラスト、図、字の大きさや色などを工夫し、分かりやすく、読み手の興味を引くように 	<p>【主体的に学習に取り組む態度①】</p> <p>粘り強く、目的を意識して中心となる語や文を見付</p>	

			作成する。	けて要約し、学習課題に沿って、得た情報をリーフレットにまとめている。 (観察・リーフレット)	
四	12	○完成したリーフレットを読み合おう。	・要約の仕方や表現の工夫に着目して読み合う。 ・単元を振り返り、今後の学習での活用について考える。		・図書館へのコーナー設置準備

6 本時の学習 (6 / 12)

(1) 目標

- ・ボッチャについて書かれた文章を、詳しいルールなど、必要に応じてどこまで取り入れるかを考えて要約することができる。「C読むこと」(1)ウ

(2) 展開

学習活動と予想される児童の反応	○教師 (◎図書館司書) の支援 ☆評価
1 前時までを振り返り、要約のポイントについて確認する。	○本時の単元での位置づけや、これまでに獲得した要約のポイントについて書きためた掲示用紙を見ながら確認できるようにする。
2 本時のめあてを確認する。 ボッチャについて書かれた文章を要約しよう ・ボッチャを知らない人もいる。 ・何を書くといいのだろう。	○要約する目的が、「みんなにパラリンピックのことを知ってもらうために重要な部分を分かりやすくする」であることを確認する。
3 ボッチャについて書かれた文章を音読し、一言一文付箋に大事な語や文を書き込む。 ・重度しょうがい者も参加できるように考えられたスポーツである。 ・冬のオリンピックのカーリングににたきょうぎだ。 ・ランプ	○一言一文付箋と情報活用シートの使用について確認する。 ○書いた付箋の中で一番必要な文や言葉を情報活用シートの一番上に置くように伝える。 ○◎児童の様子をうかがい、付箋への書き込みが難しそうな児童には、文章と一緒に読みながら大事な語や文を探すようにする。 ○他の人の付箋を見る時間をとる。
4 情報活用シートを使って要約する。 ・100字だったらこれも書くのにな。	○50字を指定し、どの付箋の内容を使って要約するのかを考えるよう伝える。

<ul style="list-style-type: none"> ・ボッチャは重度しょうがい者もさんかできるように考えられたカーリングに似たスポーツである。44 字 ・ボッチャは重度しょうがい者もさんかでき、ボールをジャックボールに近づけてとく点をきそうきょうぎだ。49 字 <p>5 要約したものを 3 人 (5 グループ) で交流し、だれの要約が分かりやすいかを話し合い紹介する。</p> <p>6 要約のポイントとして、目的や字数に合わせてどの内容を取り入れ、どの内容を省くのかを考えることを加える。</p> <p>7 自分が選んだテーマについての資料を読み、一言一文付箋や情報活用シートを書く。</p> <p>8 本時を全体で振り返る。</p>	<p>☆目的を意識して中心となる語や文を見付けて要約している。(情報活用シート)</p> <p>◎早く要約が終わった児童が自分のテーマについての資料を読むこと、一言一文付箋、情報活用シートでの学習支援を行う。</p> <p>○意味が通じるか、相手に伝わるかを視点にして話し合うよう伝える。</p> <p>○紹介された要約の共通点や良さを共有する。</p> <p>○これまで書きためた掲示用紙に書き加えるようにする。</p> <p>○◎記入の様子を伺い、声をかける。</p> <p>○要約する力レベルを自己評価し振り返る。数人の発言によって全体でも振り返りができるようにする。</p>
--	---

(3) 本時の評価

十分満足できると判断される状況	概ね満足できると判断される状況	支援を要する状況への手立て
目的を意識して、どの内容が必要かを自分の考えをもって中心となる語や文を見付けて文章を要約している。	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて文章を要約している。	付箋への書き込みや要約が難しいような児童には、一緒に文章を読みながら大事な語や文を探したり、どの語や文を使って要約するのかを考えたりする。

(4) 研究の視点

○国語の研究の視点

中心となる語や文を見付けて文章を要約するために、一言一文付箋を用い情報活用シートで整理したことは有効であったか。

○図書館活用に関する視点

図書館司書と連携した学習の展開や選書、先行読書や並行読書、授業支援は、中心となる語や文

を見付けて要約したり、事典や図鑑などから情報を得たりして分かったことをまとめて説明しようすることに有効であったか。

7. 研究協議の概要

参加者	校内 12名、校外9名 計21名
授業及び研究協議の概要	<p><授業の概要></p> <p>本時は、第二次でポッチャについて書かれた文章を、必要に応じてどこまで取り入れるかを考えて要約する授業を行った。一言一文付箋に大切な言葉や文を書き込み、情報活用シートを活用して整理しながら要約した。要約したものを友達と読み合い、共通点や良さを共有した。</p> <p><協議></p> <p>○教科書に線を引き、そこから大事な部分を一言一文付箋に書き、情報活用シートを使って要約するという流れを教科書から繰り返し行った。こうすることで、図書資料になっても、同じように大事なところを一言一文付箋に書き、情報活用シートを使って要約するという活動ができた。要約する力を手に入れる最初の段階として、一言一文付箋や情報活用シートを用いたことは効果的であった。</p> <p>○教科書の本文にとどまらず図書資料を使ったことで、要約する力の重要性や便利さに気付いたり、付けた力を発揮することに満足感を感じたりする児童が多く見られた。</p> <p>●読み比べをしたときに、「どれも良くて選べない」というグループがあった。選ぶ視点や相手意識、より短くて分かりやすいなど、児童に選ぶ視点をしっかりとめさせる必要があった。</p>

【資料1】それぞれのまとまりにおいて考えられる要約の例】

1 パラリンピックとは何か

- ・パラリンピックとは、さまざまなしょうがいがある人たちが出場する、世界最大のしょうがい者スポーツの祭典だ。52字

2-1 パラリンピックの水泳

- ・パラリンピックの水泳は、しょうがいのしゅるいやていどによって、いっぱんのルールの一部をかえるくふうをしている。55字

2-2 ボッチャ

- ・ボッチャは重度しょうがい者もさんかできるように考えられたカーリングにたスポーツである。44字
- ・ボッチャは重度しょうがい者もさんかできるように考えられたスポーツで、自分のボールをジャックボール（目ひょう球）にできるだけ近づけてとく点をきそう、冬のオリンピックのカーリングにたきょうぎである。98字

2-3 パラリンピックの競技

- ・パラリンピックの水泳はしょうがいのしゅるいやていどによって、ルールの一部をかえるくふうをしている。一方ボッチャは重度しょうがい者もさんかできるように考えられたスポーツだ。85字
- ・パラリンピックの競技には、しょうがいやていどによってルールの一部をかえるくふうをしたものや、重度しょうがい者もさんかできるように考えられたものがある。75字

3 パラリンピックが大切にしているもの

- ・パラリンピックにとって大切なものは、「勇気」「強い意志」「インスピレーション」「公平」である。50字

4 パラリンピックが目指すもの（筆者が一番伝えたいこと）

- ・パラリンピックが目指すものは、人が持つ多様さをみとめ、だれもが平等に活躍できる社会の実現である。48字